

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔岡山県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	木之子中学校	10(2)	268
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	稲倉小学校	7(1)	112
	県主小学校	6(0)	72
	木之子小学校	8(2)	135
	荏原小学校	8(2)	114

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをすすめるのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	256	57.4	31.6	8.6	2.3	62.5	31.6	3.5	2.3	26.2	58.2	13.7	2.0	20.7	55.1	20.3	3.9
		前年②	245	51.4	30.6	10.6	7.3	57.3	31.1	7.9	3.7	30.6	52.1	13.6	3.7	20.2	50.8	20.7	8.3
		本年①	263	61.6	28.1	7.6	2.7	63.1	27.0	7.6	2.3	31.6	56.3	10.3	1.9	31.6	47.9	15.2	5.3
		本年②	263	58.9	33.8	4.9	2.3	59.3	34.6	4.9	1.1	35.4	51.3	11.0	2.3	29.3	50.2	16.0	4.6
	3	中2①	97	48.5	35.1	14.4	2.1	53.6	38.1	5.2	3.1	12.4	64.9	20.6	2.1	15.5	48.5	30.9	5.2
		中2②	94	43.6	34.0	12.8	9.6	48.9	37.8	7.8	5.6	20.9	59.3	15.4	4.4	17.6	52.7	22.0	7.7
		中3①	94	47.9	35.1	14.9	2.1	55.3	36.2	7.4	1.1	27.7	58.5	12.8	1.1	18.1	57.4	20.2	4.3
		中3②	96	47.9	44.8	5.2	2.1	57.3	37.5	5.2	0	32.3	53.1	11.5	3.1	19.8	60.4	13.5	6.3
	2	中1①	74	74.3	24.3	1.4	0	75.7	24.3	0	0	31.1	60.8	8.0	0	25.7	63.5	6.8	4.1
		中1②	70	65.7	22.9	5.7	5.7	64.3	24.3	10.0	1.4	31.4	50.0	15.7	2.9	18.6	52.9	18.6	10.0
		中2①	75	60.0	30.7	5.3	4.0	61.3	25.3	8.0	5.3	28.0	57.3	12.0	2.7	18.7	52.0	20.0	9.3
		中2②	75	62.7	25.3	8.0	4.0	54.7	38.7	5.3	1.3	28.0	56.0	13.3	2.7	22.7	50.7	24.0	2.7
	1	小6①	105	65.7	25.7	7.6	1.0	78.1	14.3	5.7	1.9	36.2	49.5	13.3	1.0	46.7	44.8	7.6	1.0
		小6②	105	63.8	29.5	4.8	1.9	77.1	16.2	4.8	1.9	31.4	52.4	14.3	1.9	53.3	41.0	4.8	1.0
		中1①	94	76.6	19.1	2.2	2.1	72.3	19.1	7.4	1.1	38.3	53.2	6.4	2.1	55.3	35.1	6.4	3.2
		中1②	92	67.4	29.3	2.2	1.1	65.2	28.3	4.3	2.2	44.6	45.7	8.7	1.1	44.6	39.1	12.0	4.3
小学校	高学年計	前年①	195	64.1	26.2	8.7	1.0	76.9	17.4	4.5	1.0	34.9	49.2	13.8	2.1	45.1	44.1	9.2	1.5
		前年②	193	59.6	31.1	6.2	3.1	79.3	15.0	4.1	1.6	30.1	51.8	15.0	3.1	46.1	45.1	8.3	0.5
		本年①	164	49.4	39.6	7.9	3.0	67.1	25.0	6.1	1.8	35.0	42.9	17.8	4.3	46.3	38.4	12.2	3.0
		本年②	165	56.4	34.5	6.1	3.0	78.8	18.8	2.4	0	38.2	46.1	12.7	3.0	42.7	42.1	11.0	4.3
	6	小5①	90	62.2	26.7	10.0	1.1	75.6	21.1	3.3	0	33.3	48.9	14.4	3.3	43.3	43.3	11.1	2.2
		小5②	88	54.5	33.0	8.0	4.5	81.8	13.6	3.4	1.1	28.4	51.1	15.9	4.5	37.5	50.0	12.5	0
		小6①	88	55.7	37.5	4.5	2.3	65.9	31.8	1.1	1.1	38.6	43.2	13.6	4.5	52.3	35.2	10.2	2.3
		小6②	88	58.0	35.2	5.7	1.1	81.8	17.0	1.1	0	38.6	47.7	12.5	1.1	40.2	43.7	13.8	2.3
	5	小5①	76	42.1	42.1	11.8	3.9	68.4	17.1	11.8	2.6	30.7	42.7	22.7	4.4	39.5	42.1	14.5	3.9
		小5②	77	54.5	33.8	6.5	5.2	75.3	20.8	3.9	0	37.7	44.2	13.0	5.2	45.5	40.3	7.8	6.5

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	本年①	263	87.8	8.7	2.7	0.8	84.4	8.4	3.8	3.4	89.4	6.8	2.3	1.5	88.6	8.4	1.9	1.1
		本年②	263	87.5	6.5	3.0	3.0	82.1	11.8	1.9	4.2	87.8	6.8	1.9	3.4	86.7	8.7	1.1	3.4
	3	中3①	94	89.4	8.5	2.1	0	84.0	11.7	2.1	2.1	92.6	5.3	1.1	1.1	89.4	7.4	2.1	1.1
		中3②	96	89.6	6.3	2.1	2.1	83.3	13.5	1.0	2.1	87.5	8.3	1.0	3.1	89.6	6.3	1.0	3.1
	2	中2①	75	86.7	8.0	4.0	1.3	86.7	2.7	6.4	4.0	88.0	4.0	5.3	2.7	86.7	8.0	2.7	2.7
		中2②	75	85.3	8.0	2.7	4.0	84.0	8.0	4.0	4.0	90.7	4.0	2.7	2.7	85.3	9.3	2.7	2.7
	1	中1①	94	87.2	9.6	2.1	1.1	83.0	9.6	3.2	4.3	87.2	10.6	1.1	1.1	89.4	9.6	1.1	0
		中1②	92	87.0	5.4	4.3	3.3	79.3	13.0	1.1	6.5	85.9	7.6	2.2	4.3	84.8	10.9	0	4.3
小学校	高学年計	本年①	164	67.1	22.0	4.3	6.7	59.8	25.0	8.5	6.7	67.1	22.6	7.9	2.4	61.6	25.6	5.5	7.3
		本年②	165	72.1	17.6	4.2	6.1	64.2	24.8	7.3	3.6	73.9	17.0	5.5	3.6	63.3	24.7	6.0	6.0
	6	小6①	88	75.0	18.2	2.3	4.5	63.6	23.9	8.0	4.5	73.9	17.0	8.0	1.1	67.0	23.9	4.5	4.5
		小6②	88	71.6	19.3	2.3	6.8	67.0	19.3	9.1	4.5	73.9	18.2	3.4	4.5	52.3	30.7	6.8	10.2
	5	小5①	76	57.9	26.3	6.6	9.2	55.3	26.3	9.2	9.2	59.2	28.9	7.9	3.9	55.3	27.6	6.6	10.5
		小5②	77	72.7	15.6	6.5	5.2	61.0	31.2	5.2	2.6	74.0	15.6	7.8	2.6	75.6	17.9	5.1	1.3

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	小規模の集団環境を甘受しており、状況に応じた発言や行動をする力が育っていない。
目標	自己有用感を実感するとともに、互いに認め合い、主体的に活動する児童生徒を育成する。
取組	児童生徒の自己有用感の育成と児童生徒一人一人が居場所のある学校づくり。校種間の情報連携・行動連携の促進と交流活動の充実。

5 重点推進事項

小・中共通	①小・中交流活動 ②中学校区共通の9年間を見通した「学習の手引き」の作成、活用 ③小・中共通テーマ「一人一人が生き生きと活動できる授業づくり」
中学校	④学校行事 ⑤木之子HAPPY集会 ⑥小学校での出前授業 ⑦一人一鉢
小学校	⑧望ましい人間関係づくり(全校) ⑨小・小の連携(全校)

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<p>○ 小学校、中学校共に「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」の肯定的な回答の割合が9割を上回った。特に中学3年の割合が伸びている。</p> <p>○ 中学1年は、小学6年の時よりア～ウの項目で肯定的な回答の割合が増加した。</p> <p>○ 中学区の4小学校のうち3小学校で「みんなで何かをするのは楽しい」に小学6年全員が肯定的な回答をしている。もう1校も「学校が楽しい」に小学6年生全員が肯定的な回答をした。</p>	<p>○ 全職員がこの事業の「目標」を意識し、計画や取組を行ってきた。児童生徒は、行事や生徒会活動などを通して、人と関わる楽しさを実感し、困難を乗り越えて到達した結果から、一体感や達成感を感じることができたと考えられる。特に3年生は、中心となりリーダーシップをとって進めてきた結果、成就感や自己有用感を感じることができたと考えられる。</p> <p>○ 小・中の連携を進め交流活動などを行ってきたことにより、中学生の真剣な姿にふれ尊敬したり、優しさにふれ安心したりするなかで、中学校入学への不安が減り、期待が少しずつ高められていき「中1ギャップ」の解消につながったと考えられる。また、小・小の連携にも取り組んだことにより、入学前から他の小学校の児童との関わりをもつことができ、中学校入学後、新しい仲間ともスムーズに中学校生活を始めることができたと考えられる。</p> <p>○ 行事や縦割り班を活用した異学年交流により、6年生がリーダーの自覚を持ち、協力し合う集団づくりを推進した。授業でも学習形態を工夫し考えを共有しながら学び合いを深めたり、ICTを使用し興味をもって学習に取り組めるようにしたりする工夫を行ってきた。</p>

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<p>○ 中学2年で、中学1年の時より肯定的な回答の割合が減少した。</p> <p>○ 中学1年、2年で「みんなで何かをするのは楽しい」の「当てはまる」の割合が減少した。</p>	<p>○ 発達段階からくる傾向もあると思うが、意識のやや低い生徒の影響が広がり、消極的な活動になり、集団としてまとまりや規律に欠ける面がある。中学2年時の支援を更に工夫していく必要がある。</p> <p>○ 集団づくりの取組として、学校全体で縦割りを活用し生徒会役員やリーダーを中心とした活動を行ってきたが、特に下級生は受け身のリーダーについていっただけで一人一人の主体的な活動までには至っていない生徒が多い。学年や学級、班単位など様々な集団での活動にも重点を置いて取り組む必要がある。</p>

7 2年間の調査研究の成果と課題

① 小・中交流活動

- 小学校から中学校へ円滑な接続ができるよう、部活動体験、体育会での小学生参加プログラム、文化祭・合唱コンクールへの招待など様々な交流活動を行ってきた。この取組が中1ギャップの解消につながり、抵抗感が少なく中学校入学が果たせたと考えられる。
- 夏休み開催の部活動体験は自由参加のため、より多くの小学生が参加でき有意義な活動になるように開催時期や活動内容を検討していく必要がある。

② 中学校区共通の9年間を見通した「学習の手引き」の作成、活用

- 各校それぞれ独自の「学習の手引き」はあったが、9年間を見通し、学習の仕方、家庭学習の進め方を中心にまとめた、形式を統一した共通の「学習の手引き」が作成できた。
- 入学時のオリエンテーションなどで使用することで、ガイダンス機能を充実させることができた。

- 9年間を見通した児童生徒の育成への教師の意識改革につながった。
 - 活用の機会が、学年や学級、教科担当によって差がある。共通理解や情報交換を密にする必要がある。
- ③ 小・中共通テーマ「一人一人が生き生きと活動できる授業づくり」
- 校区で共通の授業の流れ「目標」「振り返り」「まとめ」を設定し、児童生徒が見通しをもって学習に向かうことができるようになった。授業の「ねらい」を明確にし、わかりやすい言葉で提示することにより、児童生徒が「目標（めあて）」を自覚し、自分の考えを持ちながら学習に向かうことができた。
 - 教職員が合同研修会や研究会で情報交換することで、小・中学校すべての教職員が連携して取り組むという環境が整い、児童生徒の学習や指導方法などの共有化を図ることができた。また、教職員同士が顔見知りになることで様々な面で連携しやすい環境ができた。
 - グループ学習にも取り組んだが主体的に取り組む児童生徒と受け身の児童生徒の二極化が見られ、一人一人が主体的に取り組めるような支援が必要である。
- ④ 学校行事
- 体育会での、男子全員の組み体操・女子全員のダンス・ブロック対抗の応援合戦、文化祭での合唱コンクールなど、一人一人が練習に主体的に取り組み、共同してその成果を発表することにより、達成感や自己有用感を感じ、絆づくりのできる活動となっている。
- ⑤ 木之子HAPPY集会
- 生徒会役員が企画運営をし、生徒会を中心とした縦割りのスポーツ活動に取り組んだ。回を重ねるごとに友達や先輩の活動を称賛する感想が増え、豊かな人間関係を培う活動となった。
 - 上級生は、中心となり主体的に取り組めたが、下級生は受け身の取組になったり、上級生に遠慮してのびのびと活動できなかつたりする場面が見られる。
 - 全校で取り組める競技・活動内容を考慮する必要がある。
- ⑥ 小学校での出前授業
- 小学校で出前授業を行うことで、中学校の授業に関する不安感を期待感や安心感に変える一助となった。教師の専門性を発揮すると共に「授業は楽しい」と思えるように工夫したことから学習効果を高めることができた。
 - 小学校が希望する教科の中学校教師の時間割と小学校の時間割の調整がつきにくく、回数は限られている。
- ⑦ 一人一鉢
- 生徒全員が一人一鉢植物を植え、水やりなどの世話をすることで、自分たちの環境を自分たちで整える態度を養い、生命を感じることで自他の生命を尊ぶ態度を養うことができた。
 - 継続して取り組むためには、草花の苗を購入するための経済的な裏付けを確保する必要がある。
- ⑧ 望ましい人間関係づくり
- 縦割り班を活用した集会活動・遊び・清掃活動などの取組により、異学年の友達との絆づくり、高学年にとってはリーダーとしての意識や自己有用感を高める取組となった。
 - 縦割り班遊びを設定する回数が、行事等の関係で回数が限られる。
 - 6年生と1年生では学年差が大きく、誰もが楽しめる遊びを選定する難しさがある。
- ⑨ 小・小の連携
- 複数の小学校の児童と一緒に活動することで、中学校入学前の児童同士の絆が深まり、入学後もスムーズに中学校生活を始めることができたと考えられる。
 - 各校それぞれの行事等の計画があり、中学校区4校全体で活動することが難しい。

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

○・・・予定どおり実施

△・・・時期を変更して実施又は実施予定

◇・・・計画書にはないが新たに実施

×・・・実施しなかった

<平成24年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	1年生を迎える会（全小学校） 第1回連絡協議会（東京）（小・中） 小・中交流活動（小・中）	○ ○ ×	「学習ガイド」によるオリエンテーション（1年） 第1回連絡協議会（東京）（小・中） 小・中交流活動（ボランティア）（小・中）	○ ○ ×
5月	第1回意識調査（全小高学年） 第1回調査研究委員会 第1回小中連絡協議会参加	○ × ○	第1回意識調査（全学年） 第1回調査研究委員会 第1回小中連絡協議会（小・中） 市教育委員会訪問 木之子HAPPY集会（全学年）	○ × ○ ◇ ×
6月	人権週間（全小学校） 学習の手引き作成（小・中）	○ ○	総合的な学習発表会（2・3年） 学習の手引き作成（小・中）	○ ○
7月	国研調査官訪問7月5日前後 先進校視察（小・中）（視察校：竜操中学校） 出前授業①（全小学校）	○ ○ ○	国研調査官訪問7月5日前後 県・市教育委員会訪問 先進校視察（小・中） 県・市教育委員会訪問 出前授業① 総合的な学習発表会（1・2年） 木之子HAPPY集会（全学年）	○ ◇ ○ ◇ ○ △ ○
8月	第2回小中連絡協議会 小中交流活動（希望者） 小中合同研修会	○ ○ ○	第2回小中連絡協議会 市教育委員会訪問 小中交流活動（ボランティア） 小中合同研修会	○ ◇ ○ ○
9月	出前授業②	○	出前授業② 体育会（全学年）小学生オープン参加プログラム	○ ○
10月	ブロック協議会（鳥取） 交流クラブ（木之子小・荏原小） 第3回小中連絡協議会	○ ○ ◇	ブロック協議会（鳥取） 文化祭合唱コンクール（全学年） 小学生招待 木之子HAPPY集会（全学年） 第3回小中連絡協議会	○ ○ ○ ○ ◇
11月	校区公開授業 小中交流活動（読み聞かせ）	○ ×	校区公開授業 井原市教育委員会訪問	○ ○
12月	人権週間（全小学校） 第2回意識調査（全小高学年） 小中交流（代表） 第4回小中連絡協議会	○ ○ ○ ◇	第2回意識調査（全学年） 小中交流活動（代表） 第4回小中連絡協議会 校内研修	○ ○ ◇ ◇
1月	出前授業③	○	出前授業③ リーフレット作成	○ ○
2月	第2回連絡協議会（東京）（小・中） 第1回調査研究委員会 オープンスクール（6年生）	○ ○ ○	第2回連絡協議会（東京）（小・中） 第1回調査研究委員会 オープンスクール	○ ○ ○
3月	第5回小中連絡協議会 6年生を送る会（全小学校）	○ ○	第5回小中連絡協議会	○

<平成25年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	1年生を迎える会（全小学校）	○	オリエンテーション（1年） 第1回連絡協議会〔東京〕（小・中）	○ ○
5月	第1回意識調査（全小高学年） 授業公開（荏原小）	○ ◇	小中合同研修会【小中合同】 第1回意識調査（全学年） 第1回小中連絡協議会（小・中） 第1回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中） 市教育委員会訪問（小・中） 一人一鉢 国研調査官訪問（小・中）	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6月	人権週間（全小学校） 授業公開（県主小） 授業公開（木之子小） 授業公開（荏原小）	○ ○ ○ ◇	小中合同研修【小中合同】	○
7月	出前授業（全小学校） 授業公開（稲倉小） 授業公開（荏原小） 授業公開（県主小） 第2回意識調査（全小高学年）	○ ○ ○ ◇ ○	県・市教育委員会訪問 出前授業 小中合同研修【小中合同】 総合的な学習の時間の発表 木之子 HAPPY 集会（全学年） 第2回意識調査（全学年） 第2回小中連絡協議会（小・中）	× ○ ○ ○ ○ ○ ◇
8月			第3回小中連絡協議会（小・中） 市教育委員会訪問（小・中） 小中交流活動（小・中） 小中合同研修会【小中合同】 研究紀要作成	○ △ ○ ○ ○
9月	出前授業（全小学校） 授業公開（稲倉小）	○ ○	出前授業 体育会（全学年・小学生オープン参加）	○ ○
10月	交流クラブ（木之子小・荏原小） 出前授業（全小学校） 授業公開（稲倉小・木之子小）	○ ○ ○	ブロック協議会〔高知〕（小・中） 文化祭合唱コンクール（全学年） 出前授業・授業公開 木之子 HAPPY 集会（全学年） 第4回小中連絡協議会（小・中）	○ ○ ○ ○ ○
11月	校区公開授業	○	一人一鉢 井原市教育委員会指定研究発表会開催 井原市教育委員会訪問（小・中）	○ ○ ○
12月	人権週間（全小学校） 第3回意識調査（全小高学年）	○ ○	第3回意識調査（全学年） 第5回小中連絡協議会（小・中）	○ ○
1月	出前授業（全小学校） 授業公開（稲倉小）	× ○	出前授業 リーフレット作成	× △
2月	オープンスクール（全小6年生） 小・小交流活動	○ ○	第2回連絡協議会〔東京〕（小・中） 第2回魅力ある学校づくり調査研究委員会（小・中） オープンスクール	○ ○ ○
3月	6年生を送る会（全小学校）	△	第6回小中連絡協議会（小・中）	△

(2) 重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 小・中の交流活動

小学生と中学生の交流を通して、豊かな人間性と社会性を育成することと、小学生の中学入学時の不安を軽減し期待感に変え、入学後も互いに相談しやすい関係を築くことを目的に、小中交流活動を行った。また、中学生にとっては、小学生と一緒に活動したり、熱心に取り組んでいる姿を見せたりすることで自己有用感を実感することができる考えた。

長期休業中の取組として、昨年度は中学生の希望者が出身小学校で宿題の手伝いやゲーム、読み聞かせなどを行った。しかし、中学生では下級生が主体的に活動できにくかったり、小学生では高学年の児童の参加が少なかったりと課題があった。そこで本年度は、夏休みに6年生を対象に部活動の体験や見学を行った。多くの6年生が参加した。アンケートでは、すべての小学生が楽しかったと答え、「丁寧に教えてくれたり、できたときなどにほめてもらったりしてうれしかった」「中学校に行ったら絶対ソフト部に入ります」等の感想があった。中学生からは「教えたことを素直に聞いてくれてうれしかった」等の感想があった。

中学校の体育会に小・中交流種目として、小学生のオープン参加プログラムを取り入れた。昨年度は「きづな運び」という児童と生徒が二人組でボールを運ぶ競技を、今年度は小学校区対抗の玉入れを行い、小・中学生が協力して楽しく競技する姿が見られた。また、中学校の文化祭、合唱コンクールにも小学生を招待した。



② 中学校区共通の9年間を見通した「学習の手引き」の作成、活用

昨年度、中学校区で話し合い、9年間を見通し、学習の仕方、家庭学習の進め方等、形式を統一した「学習の手引き」を作成した。中学校では入学時のオリエンテーションと新学期の学級活動、各教科の最初の授業、定期テスト前の学級活動などにも使用した。小学校でも新学期の学級活動や学習の節目に使用して学習方法などを指導すると共に、小6の3月には中学校版の手引きを参考に指導している。今後も機会あるごとに活用していきたい。



③ 小・中共通テーマ「一人一人が生き生きと活動できる授業づくり」

中学校区全体で授業づくりの小・中合同研修会や授業公開を行ってきた。この時間の学習内容をはっきりさせるために、授業の流れである「目標」「振り返り」「まとめ」を設定した。併せて中学校区全ての学校、授業で統一して行うためにプレートを作って教室に常設して使用している。特に、「目標（めあて）」の設定を大切にし、自分の考えや課題意識を持ちながら学習に向かうことができるようにした。

中学校では、「言語活動の充実」をテーマとして、グループ学習で自分の考えや気持ちを伝えたりアドバイスしたりする活動などに取り組んでいる。小学校では、表現様式を返還する活動、ペア学習やグループ学習、説明する活動などに取り組んでいる。



〔中学校〕

④ 学校行事

文化祭では、学年劇と合唱に取り組んでいる。特に合唱コンクールは、学級全員が声を出し合って一つの曲を作り上げていく過程で、学級の心のまとまりや協調性が育ち互いの絆を深めることを目的で行っている。どの学級も練習に取り組み、当日はその成果を発揮し、発表者も聞く側も感動を受ける合唱となった。いくつかの困難を乗り越えて到達した結果から、達成感や自己有用感を感じ、絆づくりができる活動となっている。



⑤ 木之子HAPPY集会

生徒会執行部が中心となり計画・立案する、異年齢集団によるスポーツ活動に取り組んだ。人と関わる楽しさを実感し、豊かな人間関係を養うことを目的に実施した。全校を3ブロックに分け3学年混合のチームを作って、ブロック対抗の「ドッジボール大会」を行った。3年生を中心にチームがまとまり、生き生きと活動できた。アンケートでは、90%以上の生徒が楽しかったと答えた。



また、同学年の友達の頑張りを賞賛する感想だけでなく、下級生から「先輩のボールが速くてすごかった」「先輩が『投げる?』と聞いてくれて、ボールを渡してくれてうれしかった」など先輩との関わりに関する感想や、「執行部の皆さんがいちばんがんばっていました。このような会をつくってくれてありがとう」など企画運営した生徒会執行部を賞賛する感想も多く見られ、豊かな人間関係を培うための活動となったことがうかがえた。

⑥ 小学校での出前授業

中学校の教員が、中学校区の4小学校に年間2回ずつ出向いて小学校が希望する教科の授業を行った。小学校で中学校の教師が授業を行うことにより、小学校の授業で専門的な教科指導を行い学習効果を高めるとともに、中学校の授業への好奇心を高めるなど、中学校に関する不安感を期待感に変え、小学校から中学校へのスムーズな移行が行えることをめざして行った。



⑦ 一人一鉢

自分達の学校環境を自ら整える態度を養い、自然の美しさに触れ、その生命を感じるにより、自他の生命を尊ぶ態度を培うという目的で、全校生徒が一人一鉢、植物を植えて管理を行っている。



〔小学校〕

⑧ 望ましい人間関係づくり

昼の休憩時間や長い休憩時間を利用して、月1回程度の縦割り班を活用した班遊びを行っている。6年生が中心となって、1年生も一緒に遊ぶ遊びを計画し実施している。遊びの後は、下級生の感想を聞くなどして次回の縦割り班遊びに生かしていけるよう反省会もした。この縦割り班遊びは、異学年の友達との絆づくり、また、高学年の児童にとってはリーダーとしての意識や自己有用感を高めるよい機会となっている。



⑨ 小・小の連携

2小学校で交流クラブを実施している。各校半分のクラブに所属する児童が相手の学校を訪問し、一緒にクラブ活動を行う。他の学校の児童と一緒にクラブ活動を行うことで、児童の絆づくりに役立っている。

また、中学校入学前に、4小学校の6年生がそれぞれの学校で同じ歌「翼をください」を練習し、中学校入学後の新入生歓迎集会で、1年生全員で歌った。新入生は、全員で歌うことで達成感や一体感を感じることができた。



9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1)	事業全般	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全般に関わる企画・調整・全校への提案 ・事業全般の推進状況の管理、記録 ・学年、教科の取組に関する参考資料の収集と紹介
4 (2)	小・中連携	・出前授業をはじめとする連携上の取組に関する連絡調整
	小・小連携	・各校の取組の情報交換と連携上の取組に関する連絡調整
4 (3)	データ収集、分析等	・意識調査の実施と集計・分析と評価用資料の作成
4 (4)	取組の評価	・意識調査結果に基づく取組の評価及び修正案の検討
4 (5)	資料作成、広報等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、教科の取組に関する資料の収集と管理 ・普及啓発用資料の企画・作成 ・リーフレット「魅力ある学校づくり」の家庭配布と地域への回覧

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 中学校区の小・中の教職員が合同研修会や交流活動等を通して連携の必要性を実感し、共に事業を推進していきやすい環境が整った。
- ・ 事業全般に関わる企画・調整、全校への提案を計画的に実施することにより、計画的に事業を進めることができた。

<課題>

- ・ 小・中連絡協議会等、連絡・協議を定期的に行ったが、目的意識や到達目標に十分な共通理解ができていないことがあった。
- ・ 小・中、小・小の交流活動や合同の研修会等で、学校行事や時間割をすりあわせることが難しく、環境整備が必要である。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

[重点推進事項]

- ・ 研究発表会開催のための支援および研究成果の広報のための支援
- ・ 意識調査の集計等の事務的支援

[課題と成果]

- 研究発表会を開催することにより、市内および近隣地域に対し研究成果を広めることができた。
- 事務的支援により、若干ではあるが学校の負担軽減につながった。
- 学校間交流の際に、市所有のバスを利用するなどの支援ができていない。
- 研究成果を広げていく活動を、今後も積極的に行う。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・ 事業成果の全県への普及の場の設定
- ・ 事業内容等への客観的視点での指導、支援

〔成果と課題〕

- 研究発表大会での指導講評により取組の総括を行った。
- 意識調査結果を指標化して分析した。
- 同様の課題をもつ近隣学校魅力ある学校づくりによる不登校の未然防止の取組について、幼小中合同研修を実施し、成果の普及ができた。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考（主な職名等）
木之子中学校	2	校長 事業担当者（主幹教諭）
稲倉小学校	1	事業担当者（教諭）
県主小学校	1	事業担当者（教諭）
木之子小学校	1	事業担当者（教諭）
荏原小学校	1	事業担当者（教諭）
木之子中学校 P T A	2	現 P T A 会長 元 P T A 会長
木之子公民館	1	元公民館長
県教育庁指導課生徒指導推進室	1	指導主事（主幹）
市教育委員会学校教育課	1	参事

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・ 学校関係者だけでなく、P T A 関係や地域の方々に参加していただくことで客観的な意見や協力をしてもらうことができた。
- ・ 県教育委員会、市教育委員会の指導や援助のもとで、各小・中学校が共通理解をして事業を進めることができた。

<課題>

- ・ 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」を実施するにあたって、日程調整が難しく、全員がそろっての開催が困難であった。

12 作成資料等

<平成24年度>

- リーフレット（平成24年度版）
- 「学習の手引き」

<平成25年度>

- リーフレット（平成25年度前期版）
- リーフレット（平成25年度後期版）
- 「学習の手引き」

13 関連URL

なし

【問い合わせ先】

所属	岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室		電話	086-226-7589	
職名	指導主事（主幹）	氏名	高橋 典久	よみがな	たかはし のりひさ